



結
yui

2018. 9. 8 No.83

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-12 1-401

TEL 080-5888-7824

Fax 029-856-2286



<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>

憲法9条の会つくば設立 13 周年記念のつどい

「映画上映とうたごえのつどい」

2018年 10月13日(土) 13:30~16:10

つくばイノベーションプラザ 大会議室

私たちの国は明治から昭和にかけて多くの戦争をしてきました。その間に日本人は310万人が戦争で命を失い、アジア諸国では2000万人以上が命を失いました。日本は空襲、沖縄戦、広島と長崎の原爆、ソ連の抑留等の犠牲者であります。アジアの諸国からの視点で見ると侵略者、加害者に他なりません。無差別攻撃、南京虐殺、生体実験、従軍慰安婦、強制連行…など枚挙にきりがありません。そして死んでいった一人一人は、今生きている私たちと同じように生きることを望みながら、命を絶たれました。戦争の悲惨さもう二度と経験したくはありません。この平和を願う思いから日本国憲法に9条が制定されました。

安倍首相は「憲法9条1項、2項を残し、自衛隊を明文で書き込むという憲法改正を、2020年までに施行する」「自民党としての憲法改正案を次の国会(2018年秋)に提出できるよう、取りまとめを加速すべきだ」と語りました。

今、まさに平和主義の中心である「憲法9条」が破壊されようとしています。これに歯止めをかけるのは私たち市民の一人一人の声です。賛同人の皆様、是非13周年記念のつどいに参加くださり、「総会の活動報告や活動計画」、映画「思いやり予算パート2」、「みんなで歌おう」を通して私たちに何ができるか一緒に考えましょう。そして改憲の流れを市民の力で止めましょう。「剣を取るものはみな剣で滅びます。」(聖書)

(つどい実行委員長 阿部眞庭)

輝け! 憲法 守ろう! いのち 2018

憲法9条の会つくば
13周年記念のつどい

10/13(土)
13:30-16:10 (開場 13:00)
つくばイノベーションプラザ大会議室

第1部 2018年度総会
13:30-13:50

第2部 映画上映「ザ・思いやり2」
14:00-15:30

<休憩15分>

第3部 みんなで歌おう
15:45-16:00

日本に帰る
アメリカ人学生
ドキュメンタリー
上映開始
14:00

資料代 900円
(当日受付にてお支払下さい)
大学生以下・障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催: 憲法9条の会つくば <http://peace.arrow.jp/tsukuba2>
<問い合わせ> 029-851-7084 (総機) 070-5598-0134 (総機) 090-6492-5378 (総機) 080-5888-7824 (事務局)
FAX: 029-856-2286

3000 万人署名の達成で改憲発議を 断念させよう!

安倍9条改憲 NO! 全国市民アクションは「まだまだ広げられる!さらなる戸別訪問と対話を『秋の臨時国会をめざし、3000万人達成に進もう!』と呼びかけています。

憲法9条の会つくばは、9月末の全国第4次集約をめざし、地域への戸別訪問と対話に取り組んでいます。梅園地域は9月2日(日)、9日(日)の両日、桜ニュータウンは9月8日(土)に行い、二の宮4丁目と松の木地域は9月23日(日)に行います。

賛同人の皆様、ご協力のほどよろしくお願い致します。

(3000万署名担当 阿部真、野崎)





自民党総裁選と改憲の行方

高田 健

(戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会共同代表)

日本会議など極右派の支配する自民党は、結党以来の念願である「憲法改正」の実現の切り札の役目を安倍晋三氏に託している。

第1次安倍政権の崩壊(2007年)以来、雌伏5年、改憲派は満を持して第2次安倍政権(2012年)をリセットしたが、9条改憲反対の世論のまえに、改憲の企ては容易にすすまず、自民党総裁任期の「連続2期6年」の期間中に改憲の実現は不可能となり、任期を「連続3期9年」に延長する方針を決定した。

現在、総裁選は9月7日告示、20日投開票で準備されている。総裁選は安倍1強体制の下で、現職の安倍氏に対する対立候補は石破茂元幹事長のみ絞られつつある。

この自民党総裁選は今後の改憲の動向に大きな影響を与えるものとなる。

安倍首相は8月12日、地元・下関で講演し、今年秋の臨時国会に自民党改憲案を提出する意向を表明した。安倍首相は3選をめざす総裁選で圧勝することで、停滞してきた党内外での改憲論議を加速させ、できるだけ早く改憲の発議に持ち込みたい考えだ。

講演では「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」と強調し、9条への自衛隊明記について、「全ての自衛官が誇りを持って任務を全うできる環境を整えることは、政治家の責任だ」とのべた。

これに対して石破氏は、「党議決定もしていない。最低限、党議決定のプロセスが必要だ」と反論。16日には、「総裁の考えを一度も提示しないままに『議論は尽くされた』とはどういうことか」と厳しく批判し、9条改正には「丁寧な手続きが必要」であり、「憲法改正は、急ぐものや多くの党の理解を得られるものからやろうということだ」と反発した。石破氏の改憲論はもともと9条2項削除論だが、いまは「参院選の合区解消」や「緊急事態対応」条項を優先すべきで、「(9条改正は)優先順位が高いとは思われない」。「(安倍氏は9条に自衛隊を書き加えても何も変わらないと説明するが)何も変わらないという改正はすべきではない」と批判する。そして「秋に(改憲案を)出すというのはスケジュールありき。民主主義の現場を理解していないとしか思えない」と述べた。

石破氏は安倍首相のこの間の安倍政治をあざ笑うかのように「正直で公正な政治」を公約の冒頭に掲げた。これにたいして、安倍首相は「現職がいるのに総裁選に出るとするのは、現職に辞めろと迫るのと同じだ」と露骨に石破つぶしに出ている。

ここまでやっても、もしも党内から石破氏に党内の一定の支持が集まるなら、総裁選に勝ったとしても安倍首相の改憲論は大きな障害に直面することになる。

安倍首相が企てる臨時国会の憲法審査会での改憲原案提出と審議にはいくつものハードルがある。①196通常国会で積み残した改憲手続法(国民投票法)の一部修正案で自公与党などのいう公選法改正にかかわるものだけにするか、立憲民主党など野党のいうテレビCMの規制などの議論を含めるのか。②改憲原案の提出には、まず現在の自民党のたたき台案を、党内の合意を経て、公明党の同意を得られるものにできるか。③できるだけ他の政党(維新や希望など)の合意をえて、改憲原案を作ることができるかどうか、などだ。

これらのハードルをクリアして、臨時国会の憲法審査会で審議し、2019年の通常国会での発議強行ができるか。強行したとしても、その後、2~6カ月以内の国民投票運動期間を経て、国民投票になる。3月が統一地方選、5月初めは天皇代替わり、7月が参議院議員選挙だ。もしもこの参院選で3分の2を失えば発議は絶望だ。

国会外では沖縄のたたかいに呼応する全国での市民の行動と合わせて、「安倍9条改憲NO!」の3000万人署名運動が広がっている。この秋、9条改憲をめぐる社会的衝突は必至だ。

沖縄との連帯を！！

◆翁長知事の逝去を悼む

沖縄県の翁長雄志知事が、8月8日に逝去されました。かつては自民党県連幹事長を務めた保守政治家ですが、2014年の知事選で、立場の違いを超えて新基地建設に反対する「オール沖縄」の候補として、当選を果たしました。

沖縄の民意を無視して辺野古の新基地建設を強行する政府に対して、闘病中の翁長知事は、7月末に前知事による埋め立て承認の撤回を表明していました。

翁長さんの4年間の不屈の闘いに深い敬意と感謝をささげ、その遺志を引き継いでいきましょう。

◆「沖縄のこころ」

今年の6月23日、「慰霊の日」の沖縄全戦没者追悼式の平和宣言で、翁長知事は昨年に続いて、「沖縄のこころ」という言葉を口にしました。それは、悲惨な戦争の体験から、戦争の愚かさ、命の大切さという教訓を学び、平和を希求する県民の思いのことで

翁長知事は平和宣言で、県民がこの思いをよりどころにして、焼け野原から「復興と発展の道を力強く歩んできた」と述べました。しかし、その「沖縄のこころ」は、戦後から現在に至るまで、ないがしろにされ続けてきました。

世論調査で県民の70～80%が辺野古移設反対の意思を示しているにもかかわらず、日本政府は8月17日に埋め立て予定海域への土砂投入を開始すると表明しました（実際は、この日程は延期されました。台風の接近を表向きの理由に、ホンネでは翁長さんの死去による県知事選への影響を計算しての変更です）。

どこまで「沖縄のこころ」を踏みにじれば気が済むのでしょうか。

（「琉球新報」6月24日付・社説より）

この追悼式では、中学3年生の相良倫子さんが自作の詩を朗読しました。

「七十三年前、私の愛する島が、死の島と化したあの日。…阿鼻叫喚の壮絶な戦の記憶。」

「私は手を強く握り、誓う。奪われた命に想いを馳せて、心から、誓う。

私が生きている限り、こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。

もう二度と過去を未来にしないこと。」



◆茨城県 沖縄 連帯と学びのツアー

その23日から4日間、つくば市の平和委員会が県平和委員会と共催で、「沖縄 連帯と学びのツアー」を企画しました。県内各地から31名の参加がありました。参加者の平均年齢68歳というツアーでしたが、タイトな日程の中、現地ならではのたいへん充実した学習を行うことができました。全員が元気で、参加者相互の交流を深めることもできました。また、多くの方からカンパをいただき、現地でお渡しすることができました。

主な日程と内容は、次の通りです。

6/23 (土)

- ・講座① 前泊博盛・沖縄国際大学教授
「沖縄の現状をどう見るか
——その混沌の中から見えてくるもの」

24日 (日)

- ・伊江島 視察
米軍海兵隊射爆演習場、伊江島土地を守る会「団結道場」、「又チドゥタカラ（命こそ宝）の家」他
- ・講座② 早坂義郎・辺野古共同センター責任者
「辺野古問題の核心は何か」
- ・現地の方との交流懇談会

25日 (月)

- ・辺野古護岸工事前「海上大行動」に参加
- ・嘉手納基地、米軍基地外住宅 視察
- ・佐喜真美術館：「沖縄戦の図」他
- ・普天間飛行場（オスプレイ）眺望



26日(火)

- 平和の礎、平和祈念資料館（摩文仁の丘）
- ひめゆりの塔
- 「不屈館 ～瀬長亀次郎と民衆資料～」
内村千尋館長（亀次郎の次女）のお話
ツアー全体を詳細に記す字数がありませんので、
現地で聞いた“言葉”のいくつかを紹介します。

*前泊先生の講座より

- 日本政府に「統治能力」はない。
日本は“法治国家”ではなく、“放置国家”。
なぜなら、新基地もオスプレイも、すべてアメリカの言いなりで進められている。それを許しているのは、国民とジャーナリズムの無知と無関心ではないか。
- 「沖縄は基地で儲けている」という人がいるが、本土では誰も基地を引き取ろうとはしない。
実際は、今は基地経済より基地返還後の方が、お金が儲かるようになっている。
- 「米軍基地問題」は、「沖縄問題」に限定されるものではない。「日本の問題」そのものである。

*ツアーのバスに同乗してくださった沖縄平和委員会・横田真理子さんのガイドより

- 沖縄で、基地の「返還」はない。土地は返されても、基地は県内に移転・新設（最新鋭の）があるだけ。
- 稲田元防衛大臣は、「辺野古の滑走路は短い（1600m）ので、普天間（2800m滑走路）の返還はない」と本音を語った。
- アベの「基地負担軽減」は、ウソ。それでも選挙に勝つのは、争点隠しと、1人10万円とも言われる「官房機密費」による買収。
- 普天間飛行場にオスプレイが配備された5年前、菅官房長官は「海の上を飛ぶ。住宅の上は飛ばない」と言ったが、それもウソ。基地は海につながっていない。本当なのは、米軍住宅の上は飛ばないということ。
- 辺野古の工事強行で、日本政府は“諦め感”を持たせるために、20tダンプを10tに変えて土砂搬入の台数を増やすようなこともしている。そんな金も、平気で使っている。
- 辺野古新基地は、V字滑走路だけでなく、軍港と弾薬庫を併せた巨大な「世界戦略拠点」になる。「核密約」を背景に、核兵器搭載機の出撃基地とすることが想定されている。
- 沖縄の自民党には、アベ自民党と、沖縄を守る保守の二つがある。
- 「オール沖縄」から離脱する地元有力企業があるという報道が本土であるが、実際には、より広範な力を結集しようとする新たな動きがある。

*早坂さんの講座より

- 「日米地位協定」が「日本国憲法」より上にあるの

が、沖縄の現実である。

- 政府は辺野古埋め立て予定海域の護岸工事を強行しているが、海底に軟弱地盤があることが明らかになっている。また、近くの沖縄高専の建物が航空法上の高さ制限に抵触するという問題もあるが、新基地のために特別に“許容”されるという。
 - 経済界も、「基地があっては経済は発展しない」と反対している。
 - 「オール沖縄」から「オール日本」へ、基地のない平和な沖縄・日本を実現しよう。
- ### *「海上大行動」で、カヌー隊を支援する抗議船から、カヌーを強制排除する海上保安庁のモーターボートにマイクで呼びかける
- 「海上保安官のみなさん、あなた方の仕事は、青い海を守ることではないのですか！？あなたたちの孫子の代まで200年も続く基地を作り、海を殺すのですか！？」
 - 「上から言われたからでなく、自分のアタマで考えてください！！」
 - 「海保のボートとカヌーでは、ダンプカーと自転車くらい、馬力の違いがあるんですよ！！」



◆知事選へ、「オール沖縄」のたたかい

11月に予定されていた沖縄県知事選挙は、9月13日告示、同30日投開票に早まりました。自公が推薦する佐喜真候補は、やはり基地問題を争点としない選挙戦を展開しますが、宜野湾市長として、普天間飛行場のフェンスに結ばれたオスプレイ反対の赤いリボンを撤去させた人物です。

一方、「オール沖縄」は、翁長知事の後継として、衆院議員・沖縄3区の玉城デニー氏を擁立しました。「オール沖縄は、イデオロギーでなくアイデンティティーだ」と語り、辺野古新基地反対の力を結集します。

政権の横暴から沖縄県民の主権と平和を守る重大なたたかいです。
(後藤義昭)

「憲法9条の会つくば」の活動



◆賛同人 2018年8月15日現在

総数 980名 (市内 710名)

◆3000万署名 8月31日現在 3210筆

当会では毎月第3日曜日に定例署名、9日に9の日署名を行なっています。その他、「戦争をする国づくりNO@つくば」と共に、毎月3日「アベ政治を許さない」スタンディングと署名を行ないます。

定例・9の日署名

猛暑の中での「改憲NO! 3000万署名」! ▼7月の署名は、3日・9日・15日の3回、実施。今年は早々に梅雨が明け、7月に入ると猛暑となり、15日からは署名時間を夕刻の17時~18時に変更しました。昨年11月に3000万署名をはじめから9か月、以前に署名をしましたよ~、という方も増えてきました。

最近特に、若い方々に署名を呼びかけるようになってきました。戦争になれば最も影響を受けるのは、男女を問わず、若い世代だからです。高校生・中学生に語りかけると、署名をするか否かは別として、話だけは聞いて下さる生徒さんが、最近増えているように思います。8月の署名は、9日、19日の2回、いずれも夕方から実施しました。7・8月に集められた署名数は全体で116筆でした。(署名担当)

ヒロシマ・ナガサキ 2018朗読劇

ヒロシマ・ナガサキに原子爆弾が落とされ、尊い命が一瞬にして奪われたあの日から73年。被爆された方やご遺族の皆さんの悲しみや苦しみは、その時と変わることなく今なお続いています。

8月5日、朗読グループサラダの会による、朗読劇「ヒロシマ・ナガサキ 2018」がアルスホールで行われ、90名を超える方々に聴いていただきました。サラダの会は、被爆者やご遺族の手記を読み、また、直接お聞きして台本を作り、朗読劇として活動しています。つくばでは、2014年8月24日、新婦人の夏休み親子

企画、2015年12月8日の不戦の集いでもお聴きいただきました。アルスホールでの上演は20年以上になります。これまでに県内外の高等学校や小学校で上演してきました。一昨年筑波高等学校2年生の平和学習で聴いていただき、この秋も予定されています。「昔あんなひどいことがあったと思うところが痛みます」戦争という争いは一つの物をうばうために何十個の大切な物や、人、家、絆、友人、家族を失う対価を払わなければいけなくなったのが良く分かった」「悲惨な戦争は二度と繰り返してはいけない」「もっとみんなに聴いてもらいたい」「戦争の醜さ、争いは悲しみしか生まず互いを傷つけあう」など沢山の感想がありました。私は、16年前にサラダの会の一員になりこの活動を続けてきました。被爆者が高齢になり、今なお原爆症の後遺症と戦っておられます。このことを風化させることなく、これからも若い人や大勢の人に核兵器廃絶を訴えながら活動を続けていこうと思っています。(下広岡:菊地二三五)



NHKスペシャル “駅の子”の闘い~語り始めた戦争孤児~ 8月12日21時~放映

戦争中は「靖国の遺児」と称えられた戦争孤児たち。家を焼かれ家族を亡くした戦争孤児たちを敗戦後の国は完全に見捨てていました。焼け残った屋根のある駅に集まった幼児から中学生くらいの真っ黒に汚れた子どもたちの姿。食べ物をくれる人もなく、闇市の商品を盗んで飢えをしのぎます。「かっぱらいをしなきゃ、生きていけなかったよ」と元駅の子の男性の証言。飢えて亡くなる子どもも多く、駅員が蹴飛ばしたり棒でついたりして死んだ子を見つけ排除します。以前見たアニメ映画「火垂るの墓」の冒頭シーン(主人公の中学生の男の子が駅で死んでいる場面)を思い出しました。

テレビでは、戦争孤児だったことを隠して生きてきた人たちが過去を語りだしていました。「野良犬と同じ扱いだった」「大人が戦争を始めたのに何もしてくれなかった」わずかにあった収容施設に保護されてもあまりにも劣悪な環境に「駅の方がまし」と子どもたちは脱走をくりかえします。絶望的なまなざしや挑戦的なまなざしを向ける「駅の子」たちに、自分の孫や子どもの姿を重ねた方も多かったのではないのでしょうか。戦争は最も弱い者たちにより過酷です。昭和20年の中頃以降、GHQの指導で孤児たちの本格的な保護がはじめられたようです。「鐘の鳴る丘」(児童養護施設の物語)のラジオ放送がはじまったのは30年台になってからでしょうか。語り始めた元孤児たちの「もう一つの戦後」、見ごたえのある番組でした。(T)

映画 コスタリカの奇跡

～積極的平和国家の作り方～

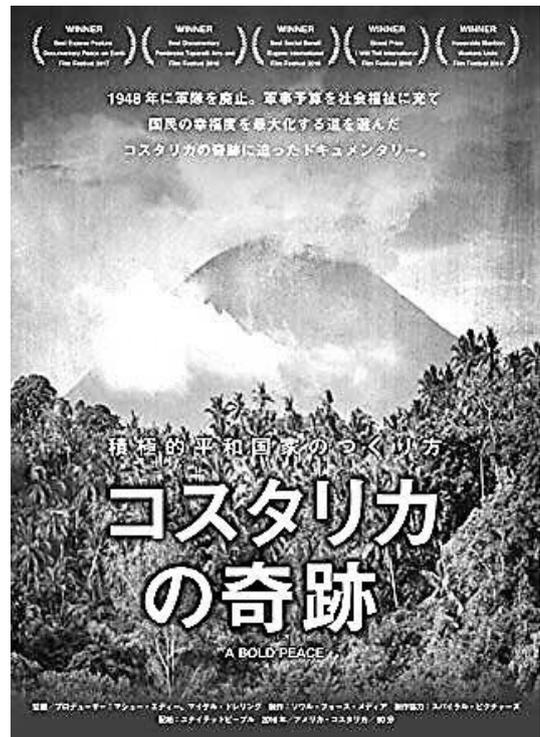
2016年/アメリカ・コスタリカ/147分

コスタリカは、6月のサッカーロシア W 杯に出場し予選リーグで最下位ではあったが強豪国スイスから2得点するなど健闘した。同国では、サッカーイベントは「国政選挙」となる国民のお祭りとのこと。人口490万人の中米地峡帯の国。

この映画で「奇跡」として描かれているのは1949年憲法で常備軍をなくすことを定め、軍事予算を抑える代わりに教育・医療・環境に国の予算を振り向け国民の生活満足度が高く（幸福度指数 HPI が世界一）、中南米で最も安全な国を実現しているからである。映画では軍隊を廃止した当時の大統領ホセ・フィゲレスの事績が紹介される。「兵士の数だけ教師を」の合言葉が多く国民に支持された。以後、国内の軍事クーデターは皆無となった。

しかし、他国の武力侵入がなかった訳ではなく、1955年にニカラグアから侵攻を受けたが、警察力での食い止めと米州機構の調停で1カ月で事を納めた。

1986年に大統領になったオスカル・アリアスは、中米紛争の種であるアメリカのニカラグア介入に反対し、中米での紛争の解決に尽力し、87年ノー



ベル平和賞を受賞したことが紹介される。

2003年のブッシュ米政権によるイラク戦争に、当時の大統領は支持声明を出すのが、コスタリカ大学の学生は憲法違反であるとして最高裁憲法廷に訴えた結果、最高裁は大統領声明の無効と戦争支援国から外れることを命じた（政権はこれを無視）。

このように紆余曲折はありながらも、コスタリカ国民は平和と豊かな生活を享受している。日本は学べることが多いのではないだろうか。2010年には、初の女性大統領が生まれた。（三浦）

※8月17日土浦市民会館小ホールでこの映画が上映されました。

インフォメーション

◆映画「日本と再生」と自然エネルギー

日時：9月16日（日）上映1回目 13:30～14:40、2回目 16:30～17:40

場所：真壁伝承館

講演：飯田哲也氏 15:00～16:00

問合せ先：0296-54-2218（小堀）

◆第4回つくば名画鑑賞会「いわさきちひろ～27歳の旅立ち」

日時：9月21日（金）上映時間 ①14:30～ ②19:00～

場所：つくばカピオホール

問合せ先：茨城映画センター029-226-3156 野崎090-4074-4964

◆小泉元首相の反原発講演DVDを見る会

日時：9月22日（土）10:00～12:00

場所：広岡交流センター

問合せ先：080-4795-1059（阿部真庭）

◆JCO 臨界事故を忘れない

日時：9月29日（土）13:30～16:00

場所：東海村産業・情報プラザ

問合せ先：029-225-8662（新婦人茨城県本部）

◆「憲法9条牛久の会」12周年のつどい

日時：9月29日（土）14:00～16:00

場所：牛久中央生涯学習センター 大講座室

映画「日本国憲法」上映&トーク

問合せ先：090-3267-6759（北島）

行動予定

9月8日（土）結 83号発行

9月9日（日）17:00～18:00 9の日署名 キュート前（ドーナツ店付近）

9月15日（土）13:30～世話人会・13周年のつどい実行委員会 並木交流センター

9月16日（日）17:00～18:00 定例署名 キュート前（ドーナツ店付近）

9月19日（水）18:00～19:00 つくば連絡会宣伝行動 TXつくば駅改札付近

10月3日（水）13:00～13:30 アベ政治を許さないスタンディング TXつくば駅 A3出口付近

10月9日（火）12:00～13:00 9の日署名 アルス前

10月13日（土）13:30～憲法9条の会つくば13周年のつどい つくばイノベーションプラザ大会議室

10月20日（土）10:00～事務局会 並木交流センター

10月21日（日）12:00～13:00 定例署名 図書館前（予定）